

学校の教育目標

・心の豊かな子ども	・よく考える子ども	・たくましい子ども
-----------	-----------	-----------

学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力を確実に身に付けさせると共に、一人ひとりの習熟度に応じて学力を伸ばす指導を行う。 ・児童自ら課題を発見し、主体的に問題を解決する力を育成する。

確かな学力向上に向けた具体的な取組

基礎的・基本的な知識・技能の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって「わかった」「がんばってよかった」「以前学習した事柄や方法が使える」と言える指導を行う。 ・繰り返し指導や小テスト等を活用して指導内容の定着を図る。 ・算数科では東京都方式の習熟度別指導ガイドラインを活用し、習熟度別に少人数指導を行い、児童の実態に応じた指導を行う。 ・東京ベーシックドリルを活用し、つまずきに立ち戻ったり、個々に応じた発展問題を工夫したプリントを使ったりして、さらなる習熟を図る。 ・「家庭学習キャンペーン」を各学期一回実施し、家庭学習の習慣を身に付けさせ、個別の課題に取り組ませる。 ・「放課後月二さんすう塾」を月5～6回程度実施し、算数のつまずきに対応する。
思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ひとりが考え、発表し合う場を設定し、それぞれの考えを深めさせる。 ・自分の考えや友達の考えを「書く」活動を様々な場面で取り入れ、よりよい考え方や表現方法を学ばせる。 ・発言・発表の仕方を指導するとともに、自分の考えを相手に伝える場面を取り入れることにより表現力を養う。 ・学び合いの時間を確保し、よりよいものになるよう互いに高め合えるようにする。
主体的な学習態度の育成、学習への意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力で粘り強く問題を解決する場を設定し、満足感や充実感が実感できる指導を行う。 ・わかる授業を行い、意欲的に取り組めるようにする。また、わからないところまで立ち戻る指導を充実させる。 ・グループ学習を取り入れ、自分の言葉で相手に伝えることを意識させる。 ・問題解決的な学習を取り入れ、主体的に学習する姿勢を養う。

「学習力サポートテスト」「学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」及び1学期の学習状況の成果と課題

	第4学年	第5学年	第6学年
国語	<p>○話す・聞くについては全国平均を6.6ポイント上回っている。</p> <p>▲書くことに大きな課題があり、全国平均を8.2ポイントも下回っている。</p>	<p>○国語全体的な力は都の平均を3ポイント上回っている。</p> <p>▲書くことについては知識も活用も都の平均を2.4ポイント上回っているが、指示語や接続語で、</p>	<p>○国語に対する関心・意欲は高く、授業中の発言も多く積極的である。</p> <p>○話す・聞くについては全国平均を1.7ポイント上回っているが、話すについては課題がある。</p>

	▲読むことについては、説明文の読み取りに課題がある。	文と文とのつながりを整理するのが苦手である。	▲説明文の読み取りと漢字の読み書きに課題がある。
算 数	▲算数はほぼ全国平均であるが、関心・意欲・態度が全国平均の4.9ポイント下回っており、苦手意識をもっている児童が多い。	○算数の知識については都の平均を7.8ポイント、活用については11.8ポイント上回り、全体的に良好である。 ▲算数の意欲については偏りがある。数量や図形などに課題がある児童が多い。	▲全体的にはほぼ全国平均であるが、算数への関心・意欲は区平均を5ポイントも下回り、苦手意識をもつ児童への対応が課題である。 ▲基礎的な分数や小数の計算でつまづいている児童が多い。数と計算や量と測定に課題がある。
社 会	○社会的事象に対する関心・意欲が高く、授業中の発言も積極的である。どの項目も全国平均を1ポイント程度上回っている。	○関心・意欲は都の平均を7.2ポイント上回っている。 ○知識・理解も5.6ポイント、活用も2.8ポイント上回っており全体的に良好である。 ▲ただし、問題を読み取り解決する力が都の平均を1ポイント下回る。都道府県の位置や名称、東京都の地図の位置と名称の理解に課題がある。	○社会的事象への関心・意欲が高く全国平均より7.4ポイント高い。 ▲知識・理解は区平均を6.1ポイント下回り、特に「工業生産と貿易」や「世界の中の国土」に課題がある。
理 科	○ほぼ全国平均であり、自然事象への関心意欲が高い。 ▲物質・エネルギーの領域や実験・観察の技能に課題がある。	○理科の全体的な力は都の平均を3.2ポイント上回る。活用については7.6ポイントも上回っている。 ▲物の重さと体積の関係や太陽の動きとかげの関係については課題が残る。	▲自然事象への関心・意欲・態度は全国平均を7.5ポイント、区平均を8.3ポイントも下回り、大きな課題である。 ▲特に知識・理解については8.4ポイントも下回る。「流れる水のはたらき」や「ふりこのきまり」に課題がある。
調査以外の教科についての成果(○)と課題(▲)	<p><音楽>○どの学年も歌唱・発声に対する意欲が高まってきている。高学年は二部合唱への取り組みも積極的である。また友達との関わりの中で技能を高めたり、創意工夫したりするグループ活動にも進んで取り組み、思いや意図をもった表現の工夫をしようとしている。</p> <p>▲器楽における技能面での個人差への支援の方法の工夫が課題である。</p> <p><図画工作>○図工に対する関心・意欲は大変高い。日常では使わない素材を多く使い、興味関心を高めた。</p> <p>▲工作の立体作品における技能に課題がある。また鑑賞で作品のよさを見つけられても、感じたことを言葉で表現することに課題がある。</p>		

	<p><家庭/技術・家庭>○関心・意欲が大変高い。調理の仕方や裁縫のやり方を身に付け、生活に活用しようとしている。</p> <p><体育/保健体育>○意欲的に取り組んでいる。特に持久力が高い。</p>	
調査以外の学年について 1学期の学習における 成果(○)と課題(▲)	第1学年	<p>○国語・算数への関心・意欲は高い。ひらがなを丁寧に読み書きするという習慣が付き、楽しく音読したりひらがなを書いたりしている。また数の仕組みや加法・減法に触れ、楽しみながら算数の学習をしている。</p> <p>▲集中して大事なことを落とさないように聞くことや拗音や促音の表記の間違いが課題である。</p> <p>▲文や絵から加法・減法の場合について判断することや繰り上がり・繰り下がりのない加法・減法を正確にすることが課題の児童もいる。</p>
	第2学年	<p>○国語・算数に対する関心・意欲は高い。国語では積極的に音読したり、登場人物の気持ちをよく読み取ったりしている。</p> <p>▲話す・聞くについては考えをまとめて話すことに課題がある。</p> <p>▲長さの単位、時刻と時間の理解に課題がある。ものさしを用い、直線を引くことができない児童もいる。</p>
	第3学年	<p>○算数に対する関心・意欲は大変高い。</p> <p>▲国語については思ったことや感じたことを積極的に発言できるようにすることが課題である。</p> <p>▲聞く力についてはついてきているが、筋道立て話すことが課題である。また段落相互の関係などに気を付けて文章を書くことに課題がある児童がいる。</p> <p>▲時こくと時間の違いを理解できず、計算を正確に行うことに課題のある児童がいる。</p>

<p>昨年度の授業改善プランに基づく結果(○)と主な課題(▲)</p>	
<p>○国語の「話す・聞く」や「書く」については、言葉を使いこなす力を高める指導の工夫により、少しずつ高まってきている。高学年では全国平均を上回る結果となった。▲低学年では「話す・聞く」や「書く」が大きな課題となっているので、積み上げをしっかりとしていく必要がある。</p> <p>▲国語の「読む」については、説明文の読み取りなどに課題が残る。</p> <p>○算数科では校内研究で取り組んだ問題解決的な学習・指導の工夫により、自分の力で考え、問題を解決しようとする姿勢が他教科でも見られるようになってきている。</p> <p>○児童の興味を引くような教材の工夫で、学習に対する関心・意欲は高まってきている。</p> <p>▲問題解決的な学習を取り入れたことで、自己解決しようとする力は高まっているが、数学的な考えや思考力をさらに高める指導法の工夫が課題である。</p> <p>○家庭学習キャンペーンの実施により、家庭学習の習慣が付き、漢字の習得率が上がった。</p>	

改善の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」態度や「書く」等、言葉を使いこなす力を高める。また、「読むこと」についても多くの文章に触れさせ、読み取る力を高める指導法の工夫をする。 ・問題解決的な学習・指導を充実させ、「数学的な考え方」についての力を伸ばす。 ・思考力を向上させるために児童の興味を引くような教材の工夫をする。
-------	--

【本校の授業改善に向けた具体的な方策】

<p>改善のための指導計画</p>	<p>○児童の実態にあった指導計画を作成し、計画的な指導と繰り返し指導を行う。</p> <p>○国語科では年間通して「書く」「話す・聞く」の機会を増やす等、表現力を高める指導の工夫を行う。また読書や視写などの機会を増やすなど、「読むこと」についても文章を深く読み取る力をつける指導の工夫をする。</p> <p>○算数科では、算数少人数担当との連携を深め、計画的に指導を進める。</p> <p>○学習形態を工夫したり、考える時間を確保したりすることで、思考力を高める。</p> <p>○指導時間内に、どの児童も進歩を実感できるよう指導計画の精査と指導方法の工夫を行う。</p>
<p>改善する指導内容 (教科、領域、観点等)</p>	<p>改善のための指導方法、指導体制</p>
<p>国語「書くこと」</p> <p>国語「話す・聞く」</p> <p>国語「読むこと」</p> <p>算数「関心・意欲・態度」</p> <p>算数「数学的な考え方」</p>	<p>△書き方の手本を示し、児童が書いたものを評価し、改善点などを伝える。</p> <p>△事前に手本となる文章の文章構成を児童とともに確認する。</p> <p>△日記、行事作文や学校生活で体験したことを、様々な学習の中で機会をとらえて書くことを日常化させていく。</p> <p>△テーマを設定した日記指導を継続する。</p> <p>△国語では、段落の使い方・表記の仕方を確認し、簡易な組み立てメモを作って作文を書かせる。</p> <p>△参考とする絵や文章をもとに、短文作りを行う。</p> <p>△書くことに苦手意識のある児童にはスモールステップで書き進められるような活動を工夫する。</p> <p>△自分の考えを決められた字数でまとめることや10分作文を行う。また筆者の考えや伝えたいことを決められた字数で簡潔にまとめる。</p> <p>△天声人語の視写を行い、それについての自分の考えを書けるようにする。</p> <p>○言語能力を高められるような場面を多く設定する。(話形の提示、短作文の日常化など)</p> <p>△定期的に読み聞かせの活動を取り入れ、集中して聞く良さを実感させる。</p> <p>○読書の機会を増やし、多くの文章に触れさせる。</p> <p>△題材文の学習前に視写を行い、深く読み取る力を育てる。</p> <p>○習熟度別学習のコース分けで児童の実態を丁寧に見取り、コースに合った単元計画で授業を進めていく。</p> <p>△ゲームなども取り入れ、数に関する興味・関心が高まるような指導をする。</p> <p>○問題解決の時間を重視し、自分で問題を考える、2人組、グループで解き合う時間を設ける。</p>

理科「知識・理解」	<p>△単元全体を通して問題解決学習の流れをつくり、「問題把握→自力で課題解決→グループや全体での学び合い」の授業で思考力を高めていく。</p> <p>△あらゆる解決方法に気付けるよう、考えの共有を行う。そこからよい考え方を見つけさせ、習得させる。</p> <p>△計画→予想→実行→練り上げを行い、すべての児童が自力で問題解決できるようにしていく。</p> <p>△実験するめあてを意識させ、結果から何が分かったのか、毎時間まとめるようにする。</p>
評価活動の工夫	<p>○学習後、学習の様子や理解について、児童に自己評価や相互評価する時間を設定することにより、学習意欲を高める。</p> <p>○ノートやワークシート等、多面的に児童の学習状況を把握する。</p> <p>△あらかじめ児童に評価のポイントを知らせることで課題に対する意識を高める。</p> <p>△座席表に児童の発表や反応、つぶやき等を記録し、評価と支援に生かす。</p> <p>△国語で「書くこと」については、個々の文章量やいくつかの観点で書けていたか記録を取り、指導・評価につなげる。</p>
家庭や地域との連携の工夫	<p>○家庭訪問や個人面談等で保護者に学習状況や到達度を示し、児童の様子を理解してもらうことで協力をあおぐ。</p> <p>○必要に応じて家庭と連絡を取り合い、個別指導や問題解決にあたる。</p> <p>○学校日より、学年日より、学級通信等で学校での取り組みや学習内容、持ち物などに対してきめ細かに知らせる。</p> <p>○各学期に一週間程度「家庭学習キャンペーン」を実施し、家庭学習の習慣化を図る。</p> <p>△家庭で音読を聞いてもらったり、ドリル等の進捗状況を伝え、励ましてもらったりすることで、児童の習熟度を把握してもらう。</p>
検証方法	<p>○単元後に評価テストを行う。</p> <p>○教員相互で授業公開し、授業評価を行って分析する。</p> <p>○保護者、学校評議委員、評価委員の評価等、外部評価を実施する。</p> <p>△個別指導改善シートを活用し、学期末に分析する。</p> <p>△学習力サポートテストや都学力向上調査等の分析を行う。</p>

【学力向上を支えるその他の取組】

- 毎週火、木曜日の朝学習時に東京ベーシックドリルや本校作成のプリントを利用して、漢字や計算に取り組みさせることで基礎基本の定着を図る。また、校長・副校長・専科教員が補助に入り、つまずきのある児童を支援する。
- 読書週間を設け、学校と家庭で読書に親しむことで多くの文章に触れ、世界観を広げる。
- 4年生希望者を対象に水曜日の放課後、「アフタースクール」を行い、基礎基本の定着を図る。
- 3～6年生対象に火、木、金の放課後に算数の補習教室「放課後月二さんすう塾」を設定し、つまずきに対応する。
- OJT研修で毎月一回理科実験実技研修を行い、理科学習への関心・意欲を高められるような教材研究に学校全体で取り組む。